排水溝見つかる

◇土佐国府跡発掘調査◇

十二月六日、昭和六十一年度土佐国府跡発掘調査の現地説明会が行われ、約百五十人の市民が参加しました。

この調査は、県教育委員会が県指定史跡土佐国府跡の範囲を確認するとともに国衙の位置を明らかにし、主要な遺構の規模、構造を解明、その保存、整備のための基礎資料を得るために昭和五十四年度から行っているものです。今回の第十五次調査は市教育委員会が県教育委員会の協力で実施。十月二十日から、比江の松の下地区と南屋敷地区八百八十四平方㍍を調査しました。結果は次の通りです。

……

前回までの調査では、政庁周辺の官衙群と思われる遺構が検出されていますが、政庁跡は確認されていません。

今回、松の下地区では四棟の掘立柱建物跡が発見されました。前回の調査で検出された五棟の建物跡と関連があると考えられ、その中の一棟は前回の建物跡につながり、南北二間（一間＝約一・八㍍）、東西六、七間であることが確認されました。いずれも柱穴の規模が大きく、東西方向に延びるものと南北方向に延びるものに分けられます。穴倉と思われる土坑も三個検出されました。

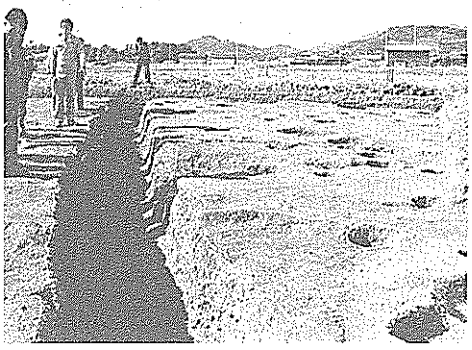
今回の調査で、前回に引き続き大きな柱穴を持つ掘立柱建物跡が検出されたことから、ここに政庁周辺の重要な官衙が存在していたことが考えられます。

南屋敷地区では、北東―南西方向に走る排水用と思われる溝が検出されました。幅約七十㌢、深さ約八十㌢の箱掘りの溝です。

政庁は溝で区画されていましたが、方向から考えて、今回検出された溝は政庁を囲むものではないと思われます。今後、北東方向に溝を追っていくことによって、政庁を囲む溝に続く可能性もあり、重要な手がかりになるのではないかと注目されています。

両地区からは、須恵器、土師器、土師質土器など、約二千点が出土しました。

そのほか、松の下地区からは中世の集石墓が検出され、土師質土器としては県下で初めての蔵骨器が発見されました。



南屋敷地区で見つかった排水溝

国府＝律令制下、各国に置かれた行政官庁の所在地で、役人の住居、民家なども含む。

国衙＝国府の中心となる官衙で、役所群、倉庫群、工房などからなる。

政庁＝国衙の中心となる建物群で、正殿、脇殿、前・後殿などからなり、築地塀、溝で囲まれている。

◇土佐国衙跡◇

比江の紀貫之邸跡の南方で、八世紀ごろから国府が置かれていました。この地には、国庁の前、府中、内裏などの字が残り、須恵器等も出土しています。県の指定史跡で、地方の官衙跡として全国でも重要な遺跡です。

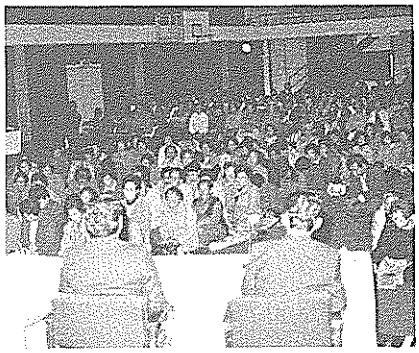
これからの社会教育のあり方を考える

第１回南国市社会教育研究集会

社会の連体意識を高め、生きがいのある活動を進めよう――と、第一回南国市社会教育研究集会が十二月七日、市民体育館で開かれ、約九百人の市民が訪れました。

これは、地域の社会教育を振興し、市民一人一人の生きがいを創造し、やすらぎと潤いのある文化活動の活性化を図ることを目的に、市教育委員会、市社会教育研究集会実行委員会が主催して、今年初めて開いたものです。

約九百人の市民が参加して討論が行われた



開会にあたって、鈴江広幸教育長が「生涯教育の視点に立って社会教育の見直しが求められるようになった。この集会を改善の気運を盛り上げる機会に」とあいさつ。

小笠原市長の祝辞に続いて、「青少年教育の課題と社会教育のあり方について考える」と題してシンポジウムが行われました。伊野町立神谷中学校の明神宏相校長をコーディネーターに、四人の登壇者が子育てについて討論。「子供にとって憩いの場である家庭、地域づくりを進めなければならない」などの意見が出されました。登壇者による討論の後、会場全体で討論が行われ、「子供の長所を伸ばすことを考えるべきではないか」など、様々な意見が出されていました。

その後、コーラス大篠のメンバーが美しい歌声を披露しました。

最後に、女優のミヤコ蝶々さんが『おもろうて　やがて哀し』と題して記念講演。エピソードを交えて語られる生き方に、会場を埋めた皆さんは魅了されたように聞き入っていました。